15. 核医学検査が有用であったメッケル憩室症の1例

外山 貴士 篠原 功 望月 輝一
(愛媛県立今治病院・放)
吉田 和弘 渡部 雅愛 (同・小児)
坂東 康生 (同・外)
伊東 久雄 石根 正博 飯尾 篤
浜本 研 (愛媛大・放)

術前に診断し得たメッケル憩室の1例を経験したので若干の文献的考察を加え報告した．症例は反復する血便を主訴とする15歳女性で^{99m}Tc-赤血球による腹部シンチで出血部位が推定でき，小腸造影と$^{99m}TcO_4^-$による腹部シンチでメッケル憩室を描出し得た．一般に，出血を主訴とするメッケル憩室は異所性胃粘膜を含むことが多く，メッケル憩室シンチが診断に有効と考えられるが，その際，常に false-negative, false-positive の存在を念頭におくことが必要と思われる．

16. 骨シンチグラフィーにて発見された髄膜腫の1例

原田 雅史 棚上 彰仁 林 義典
大西 範生 上野 淳二 須井 修
(徳島大・放)

^{99m}Tc-リン酸化合物による骨シンチグラフィーでは，骨以外の病変への集積の報告も多い．特に，中枢神経系では，髄膜腫や脳梗塞への集積が，かなりの頻度で認められ，骨シンチグラムの読影上，必要な知識と言える．

今回，われわれは，甲状腺癌術後の経過観察中に行われた骨シンチグラフィーで，偶然に発見された無症状の髄膜腫の1例を経験したので，若干の文献的考察を加え報告した．

本例における骨シンチ用剤の髄膜腫への集積機序としては，著明な石灰化および血管造影での豊富な血流がみられることより，腫瘍自身のリン酸カルシウム代謝の亢進と，血流増加が関与しているものと考えられる．

17. ^{99m}Tc-リン酸化合物の骨外集積を認めた2症例

西岡 正俊 吉田 祥二 沢田 章宏
上池 修 山本 洋一 森田 賢
小原 秀一 前田 知穂 (高知医大・放)

^{99m}Tc-リン酸化合物による骨シンチにて骨外集積を認めた比較的珍しい2症例を経験したので，若干の文献的考察を加えて報告した．

症例1は13歳男性で，主訴は10歳頃からの両側大腿部痛である．筋系逸脱酵素の上昇，血中および尿中ミオグロビン高値，また父親の血中ミオグロビン高値により，遺伝性ミオグロビン尿症と診断した．骨シンチでは右大腿四頭筋および臀筋に集積がみられた．大腿四頭筋生検では，軽度の筋線維の萎縮がみられたのみであった．

症例2は64歳女性で，bone scan 製剤の胆嚢癌およびその肝浸潤巣への集積がみられた．

骨外性集積の機序については不明な点も多いが，これまでに言われている多くの因子が関連しているものと思われる．

18. 骨シンチグラフィによる Renal osteodystrophy の経過観察

大塚 信昭 福永 仁夫 小野志磨人
永井 清久 光森 通英 柳元 真一
友光 達志 村中 明 森田 陸司
(川崎医大・核)
西下 創一 (同・放)

人工透析中の慢性腎不全症例につき，骨シンチを施行し，集積 pattern や RI 集積比(頭蓋骨，第3腰椎)から type に分類し，併せて血中 Ca, P, ALP, PTH 濃度との関係を観察し，ROD における骨シンチの有用性を検討した．骨シンチ上，頭蓋骨への強い集積を示すもの，肋軟骨への強い集積を示すもの，骨への集積が低下したものや，各 type の混合型，移行型が認められた．さらに治療や経過観察による集積 pattern や RI 集積比の変動を検討した．6か月後の再シンチでは骨への強集積を示す type は変化が認められなかった．しかし，初回スキャン時，正常 pattern を示した症例でも，再スキャンにて RI uptake ratio が上昇し，2 HP へ移行する傾向を示すものも認められた．治療では，特に骨への集積が低下

Presented by Medical*Online